

令和 5 年度「若手・新入社員教育研修」を実施

当工業会は、人材養成対策事業の一環として、7 回目となる「若手・新入社員教育研修」を、8 月 30 日（水）～9 月 1 日（金）に 2 泊 3 日の合宿形式で実施し、会員企業 19 社から 34 名が参加した。

本研修は、今後の船用工業を支える若手・新入社員が、①社会人としての考え方やマナー等を身に付け、②船用工業を含む日本の海事産業全般に関する基本的知識を学ぶとともに、③業界内で相互交流する機会を提供することを目的としている。

研修では当工業会の人材養成検討委員会アドバイザーの小野正治氏（当工業会 顧問／元富士貿易㈱ 代表取締役会長）から船用工業のグローバル戦略について、矢野吉治氏（神戸大学 名誉教授／同大学練習船・深江丸 元船長）から船の四方山話と題して船員の立場からの船舶関連の技術関連の講義を行った。研修生間の親睦を深めるため相互に紹介をする他己紹介を行うとともに懇親会を行った。

研修 2 日目にはジャパン マリンユナイテッド株式会社の協力を得て、同社横浜事業所磯子工場の工場見学を実施した。鋼板からのブロックの製造工程、建造ドックでの施設や建造中のバルクキャリアを見学した。艀装岸壁で艀装中の気象観測船の内部の船用機器の据付工事の状況を見学した。今回は、見学後の質疑応答をより活発な内容とするため、初めての試みとして研修生を 4 グループに分けて、造船所側の説明者を設計・開発・調達等の担当業務ごとに、ローテーションによる意見交換会を実施した。「質疑応答の時間に多くの質問をすることができて良かった」、「質疑応答が充実しており、時間が足りなかった。」などの意見があり大変好評であった。

グループワークとして実施した、ビジネスゲーム「The 商社」では経営者視点のロールプレイングを通じて「今後自社と顧客との関係を通して業界にどのように貢献していくか。」という問について各自の考えをまとめた。研修生からは「環境規制や自動化等の課題に対して、業界で連携して技術開発に取り組みたい。」といった回答があり、充実した内容となった。

研修生は、当初は緊張した面持ちであったものの、3 日間の研修を通じて交流を深め、最終日のグループワークでは活発に意見交換が行われ、本研修は成功裏に終了した。

記

1. 実施期間：令和 5 年 8 月 30 日（水）～9 月 1 日（金）
2. 研修場所：L stay&grow 晴海（東京都江東区）
3. 施設見学：ジャパン マリンユナイテッド株式会社 横浜事業所磯子工場
4. 参加者：19 社 34 名（平均年齢：24.6 歳）

伊吹工業㈱、㈱カシワテック、かもめプロペラ㈱、㈱京泉工業、ジャパンマリンユナイテッド㈱、ダイハツディーゼル㈱、大洋電機㈱、㈱田邊空気機械製作所、㈱帝国機械製作所、東京計器㈱、ナカシマプロペラ㈱、西芝電機㈱、阪神内燃機工業㈱、BEMAC㈱、日立造船マリンエンジン㈱、㈱日立ニコトランスミッション、富士貿易㈱、ボルカノ㈱、㈱ミズノマリン

5. 研修内容：

日程	次第	内容	講師
1日 目	研修生自己紹介	隣同士のペアで自己紹介の後 他己紹介	
	講義	世界の海上物流を支え 成長を続ける船用工業	(一社)日本船用工業会 澤山専務理事
	講話	船用工業の グローバル戦略について	人材養成検討委員会 アドバイザー 小野 正治氏
	講義	船の四方山話	人材養成検討委員会 アドバイザー 矢野 吉治氏
	交流会		
2日 目	ビジネス マナー講座	ビジネスマナー講座	(株)インソース
	造船所見学	ジャパンマリンユナイテッド(株) 横浜事業所磯子工場	
		質疑応答	設計部門、工作部門 調達部門等担当者
3日 目	講義	船用工業における 安全環境対策の重要性	(一社)日本船用工業会 中橋業務部長
	グループワーク	「The 商社」	(株)プロジェクトデザイン

以上

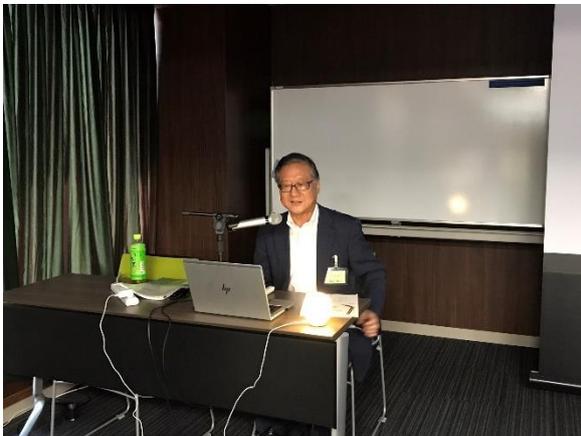
(事務局問合せ先) 業務部 山内 TEL: 03-3502-2041



小野アドバイザーによる講話の様子



矢野アドバイザーによる講義の様子



澤山専務理事による講義の様子



中橋業務部長による講演の様子



研修生による自己紹介の様子





交流会の様子



ビジネスマナー講座の様子



造船所見学の集合写真



造船所見学の様子



グループワークの様子



以上